

令和6年度（2024年度）
東京都福祉サービス第三者評価

社会福祉法人豊島区社会福祉事業団

西巣鴨さくらそう保育園 様

【評価結果報告書】



日本介護情報機構株式会社
(機構 04-118)

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 162-0063

所在地 東京都新宿区市谷薬王寺町53-8 薬王寺ビル6F

評価機関名 日本介護情報機構株式会社

認証評価機関番号

機構 04 - 118

電話番号 03-6380-1341

代表者氏名 代表取締役 渡邊裕貴



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	山本 吉士郎	経営	H1201029
	②	遠藤 康弘	福祉	H1101006
	③	金城 弘子	福祉	H1801030
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	西巣鴨さくらそう保育園			
事業所連絡先	〒	170-0001		
	所在地	東京都豊島区西巣鴨1丁目1番13号		
	TEL	03-5907-5110		
事業所代表者氏名	園長 山口範子			
契約日	2024年 7月 12日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 8月 10日			
利用者調査結果報告日	2024年 10月 15日			
自己評価の調査票配付日	2024年 8月 10日			
自己評価結果報告日	2024年 10月 15日			
訪問調査日	2024年 10月 18日			
評価合議日	2024年 10月 31日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、事業所に第三者評価に関する事前説明を行い確認を得ました。利用者調査は、利用保護者を対象としたアンケート調査を行いました。事業評価は、経営層及び職員個別の自己評価結果及び利用者調査結果を分析した上で、評価者間で調査時の着眼点を共有し、準備してもらった帳票・文書の一覧表を交付して訪問調査を実施しました。訪問調査では、管理者及び関係職員に対するヒアリングや書類の確認を行い、訪問調査後に評価者間の合議による本報告書を作成しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025年 2月 5日
 事業者代表者氏名 豊島区社会福祉事業団
 西巣鴨さくらそう保育園
 園長 山口範子



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 利用者の処遇にあたっては、人権を尊重し、心身ともに健やかに育成され、またはその有する能力に応じ自立した日常生活が明るく快適に営むことが出来るように支援します。</p> <p>2) 事業の運営にあたっては、施設が地域社会の一員である事を自覚し、地域の皆様、利用者及び家族の方々から信頼されるよう努めます。</p> <p>3) 経営にあたっては、常に最小の経費で最大の効果をあげるという視点に立ち、より一層の効率化、能率化に努めます。</p> <p>4) 職員は、常に自己研鑽に励み、質の良い職務の実現に取り組むと共に、明るく活気のある職場づくりに努めます。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに寄り添い、主体性を大切に保育を心がける。 ・一人ひとりの発達に沿った保育を行う。 ・保護者に信頼される保育を心がける。 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の中で役割に責任を持ち、自ら考え、実行する。 ・研修等に積極的に参加し、意欲的に取り組む。 ・職員同士でお互いに意見を共有し、チームワークを築く。

調査対象	114世帯の保護者を対象としました。		
調査方法	調査の趣旨とORコードを記した説明文を園から保護者に配布してもらい、WEBフォームからアンケートに回答をしてもらいました。回答は当機関で収集・管理し、園には回答者が特定できないよう配慮しました。		
利用者総数	130		
利用者家族総数(世帯)	114		
共通評価項目による調査対象者数	114		
共通評価項目による調査の有効回答者数	73		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	64.0		

利用者調査全体のコメント

<p>・総合評価として「大変満足」が72.6%、「満足」が27.4%、回答者全員が満足と高い評価になっています。</p> <p>・総合的な自由意見としては「非常にきめ細やかに、時には親よりも敏感に子どもの変化に気づいて共有して下さっています。毎日の連絡帳も丁寧だと思います。」「いつもたくさんの園児がいてひとりひとり見守るのも大変ななか、少人数でとてもよく頑張ってください。本当にありがたいです。」「こちらの園にお世話になれて本当によかったし、これからもお世話になりたいです。第二子が生まれてもこちらにお願いしたいです。」「最近問題になっている保育園での虐待などあるので、園での様子を保護者がいつでも確認できるようにカメラを設置して見れるようにしてほしい。」「特に低月齢の行事が少ない」「自転車置き場に屋根が欲しいです。(複数回答)」「こちらの保育園だけではないと思いますが安全面の考慮も考えると子どもの数に対して保育士数が少なすぎると感じますので、国や地域で補助がきたらいいなと思っています。」「クラス関係なくお友達がとても優しい。日頃から先生たちや保護者の方々との繋がりが強いのだなと感じています」などの意見がありました。</p>

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	73	0	0	0
<p>・「はい」が100%となっています。</p> <p>・自由意見として「家庭にいたのでは経験できない、同じ年頃の子どもたちとの社会を経験できるから。」「心身ともにおかげさまで成長を感じます。」「他の子に比べて心の発達が少し遅めの子ですが、無理強いせず、子どもの成長速度に合わせてくれています。」「色々な活動の中で先生やお友達から教えてもらった事を一生懸命話してくれます。」「お友達の会話や動きにかなり刺激を受けています。家にはないおもちゃや巧技台、園庭もあり五感を刺激されていると思います。」などの意見がありました。□</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	72	1	0	0
<p>・「はい」が98.6%となっています。</p> <p>・自由意見として「水遊びやおともだちとの遊びなど、家ではできないことをしてくれています。」「季節に合った活動を取り入れてくださっていると感じます。」「家に帰って来て園での出来事を楽しそうに教えてくれるところを見ると園での活動が子どもにマッチしていると感じる。」「プールやシャワーはいつまでと決めるのはいいが、昨今の猛暑もあるので柔軟に後ろ倒してもよいのではないかと思います。」などの意見がありました。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	67	5	0	1
<p>・「はい」が91.8%となっています。</p> <p>・自由意見として「おやつの量も調整していただきありがとうございます。」「こどもは保育園のご飯が大好きで 保育園でなら野菜も食べれると言っています。」「栄養バランスがよく考えられていると思うが、量が少ないように感じる。」「あまり昼食を食べないようです。好き嫌いなのか、食事が終わった子から遊んでいるようなので、子ども自身が遊びたいから食事を早く切り上げている可能性もあるのかなと感じています。」などの意見がありました。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	57	15	0	1
<p>・「はい」が78.1%となっています。</p> <p>・自由意見として「特に自然と関わる機会が強いと感じる。社会との関わりはまだ分からない。」「乳児クラスのイベントがもっと充実していると嬉しいです。」「現状とても満足しておりますが、年長組だけでなく、地域の方々と関われる機会が少しでもあるとより良いなと思ったりもします。」「老人ホーム訪問や小学校見学、図書館、工場などの社会科見学など、公園以外の社会との拘り機会を作ってほしい。」「コロナ前と比べると規模も小さく、参加人数も最小となっている印象です。」などの意見がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	51	10	0	12
<p>・「はい」が69.9%となっています。</p> <p>・自由意見として「嫌な空気も出さずに 優しく受け入れて下さり、助かっています。」「当日の連絡でも快く対応してもらっています。」「いつも対応していただき、とても助かっています。」「イレギュラーな保育時間の変更が可能なら知らなかった。」などの意見がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	62	10	1	0
<p>・「はい」が84.9%となっています。</p> <p>・自由意見として「現状でもよく考えいる印象だが状況は常に変わっていくので常にアップデートを続けてほしい。一度やったらおしまい、ではなく、常に安全最優先で考えてほしい。」「0～2歳までは教員も多く安全対策がされているが、3～5歳は教員の人数が足りず安全確保が不十分に感じる。」「門を時々開けたままにしてしまっている保護者がいて、門が空いているので子どもが親より先に保育園の外に出てしまうことが何度かあり、安全面で心配。」などの意見がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	53	15	4	1
<p>・「はい」が72.6%となっています。</p> <p>・自由意見として「平日の予定も年初に配る予定表に記載いただけると嬉しいです。」「翌月に保護者が必要な催しがある場合は、前月頭または前々月にお知らせしてほしい。シフト制のため直前のお知らせは業務に支障が出る。」「平日の14時など開始だと、なかなか調整できない」などの意見がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	65	8	0	0
<p>・「はい」が89.0%となっています。</p> <p>・自由意見として「お友達との関係で何度か相談させていただきましたが、すぐに面談などお話ししていただける機会を設けてくださり、子どもにも保護者にも寄り添ってくださっていると感じました。安心しましたし大変ありがたかったです。」「お迎えの際に今日の様子を伝えてくれる。特に何かあった際は細かく教えてくれ、子どもの様子以外にも、子どもの気持ちを汲んだ上で先生がどのような対応をしたかを教えてくれるため、安心できる」などの意見がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	68	5	0	0
<p>・「はい」が93.2%となっています。</p> <p>・自由意見として「綺麗だと思う。」「土足と下足のエリアをもう少し分けた方が良いと思う。」「玄関の土足と中に段差がないので、安全ではありますが、土汚れが入り込んでいます。」「幼児の部屋が狭く感じます。ロフトが多すぎる気がします。」などの意見がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	70	2	1	0
<p>・「はい」が95.9%となっています。</p> <p>・自由意見として「どの先生も親にも子にもいつも丁寧優しく接してくれます。」「職員全体のレベルが高過ぎるが故に相対的に癖ありキツめに感じる職員がいます。」「先生自身も自由にのびのび保育できる環境が望ましいと思っています。」「人間なので気分によって多少対応が変わるのは仕方がないと思っています。対親は気にしないが、子どもに波及しないように意識してほしい。」などの意見がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	69	4	0	0
<p>・「はい」が94.5%となっています。</p> <p>・自由意見として「しっかり様子を伝えて共有いただける。」「小さな突き指だったり、転倒だったりも、きちんと報告して下さって、次の日の別の先生まで知っていてくれます。安心できます。」などの意見がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	43	12	0	18
<p>・「はい」が58.9%となっています。</p> <p>・自由意見として「いじめは無いが、いさかいなどで子どもが泣いたことがあったりするとその様子、理由を具体的に共有いただけるので信頼できる。」「適宜介入していただきありがとうございます。」「まだその事態に遭遇していないので、わからない。」などの意見がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	69	4	0	0
<p>・「はい」が94.5%となっています。</p> <p>・自由意見として「子どもが先生を好んでいる様子からも大切に対応いただけていると感じる。」「アプリでの連絡や送り迎えで先生にお会いした際の会話から、いつも本当によく見てくださっているのを感じます。愛情たっぷりの園だと感じます。」「教員による。非常に親身になって寄り添ってくれる先生もいれば、業務と割り切って接していると分かりやすく伝わってくる先生がいる。」などの意見がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	63	5	0	5
<p>・「はい」が86.3%となっています。</p> <p>・自由意見として「あまりそのような場面に出くわしていないため分かりかねるがおそらく問題ないと思う。」「子どもの月齢的にまだまだこれからかなと思います。」などの意見がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	68	3	1	1
<p>・「はい」が93.2%となっています。</p> <p>・自由意見として「保護者会などで説明いただいた際、明快であった。」「活動の内容やクラスの雰囲気がよくわかるのでいつも楽しみにしています。」「あまり保護者会に参加できていないので、分からない」「説明の有無は職員によってかなり差があります。また、年があがるにつれて説明がなくなっていく。」などの意見がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	58	5	0	10
<p>・「はい」が79.5%となっています。</p> <p>・自由意見として「不満をお伝えしたことはないです。いつも子ども達と向き合ってくださいに感謝しかないです。」「保護者会アンケートなどで要望を伝えても改善したいと回答されるがあまり改善が見られない。(遊具や門の鍵など機械や工事的な事はすぐに改善されるが、保育内容や行事などはコロナもありましたがもっと増やしたり改善してほしい)」「正直、匿名でないと聞えないことが多い。匿名で意見できる機会を増やしてほしい。」などの意見がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	32	14	6	21
<p>・「はい」が43.8%となっています。</p> <p>・自由意見として「あまりそのような場面に直面していないが問題ないと思う。」などの意見がありました。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		○非該当
	カテゴリ1の講評	
	当園は、保育理念および方針を掲げ、運営の基本を定め、職員や保護者に周知しています さくら保育園は、社会福祉法人豊島区社会福祉事業団(以下「事業団」または「法人」)の運営のもと、「柔軟な発想で『変化の時代』を切り拓く人材を育てる」という保育理念に基づいて保育運営を行っています。当園では、この理念を事業計画や全体的な計画などの公式書類に掲載しています。職員に対しては、年初の会議で年度方針を説明する際にこの理念を確認し、周知しています。また、保護者には入園時に配布する資料や「園のしおり」に掲載し、法人および当園の保育に関する基本的な考え方を説明しています。	
	園長は、組織を統括し、保育方針の実践に向けて先頭に立って役割を果たしています 園長は、常に保育所保育指針が定める施設長の役割に則り、職員の先頭に立っています。また、法人の理念と方針を念頭に置きつつ、経営層(施設管理者)としての役割を果たし、園の運営に努めています。具体的には、職務分担の決定、年度計画および各プロジェクトの推進、安全管理の統括、保護者支援、地域の関係機関との連携を通じて、その役割を発揮しています。さらに、職員の専門性と資質向上のための環境整備を重視し、職員一人ひとりの希望や特性を把握した上で、法人と連携し、計画的な育成プログラムを実行しています。	
	重要な案件については、審議および決定の手順が定められています 重要な案件における意思決定のための組織体制や、各種会議の役割は定められています。意思決定のプロセスは、乳児・幼児会議や職員会議を経て進められ、最終的な決定に至ります。ただし、案件によっては各クラス、および乳児・幼児会議での討議を経る場合もあります。法人本部からの決定事項や豊島区からの通知についても、園長を通じてリーダー会議や職員会議で周知を行います。利用者(保護者)に関わる案件は、運営協議会や保護者会、配信、園だより、掲示などを通じて説明しています。	

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
◎あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
◎あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
<p>事業運営のニーズを把握するため、保護者や職員の意向を聞き課題の抽出に努めています</p> <p>利用者(保護者)の意向を把握するため、保護者会を通じて意見を収集し、運営協議会で検討しています。また、毎日の送り迎え時における保護者との会話や、行事後の意見や感想も重視しています。今年度は、福祉サービス第三者評価の受審に際して実施したアンケート結果や意見も参考にしています。これらの結果を基に課題を抽出し、次年度以降の計画に反映しています。さらに、職員会議や幼児・乳児会議で出された意見を参考にし、職員からのヒアリングを通じて意向を確認したうえで運営の参考としています。</p> <p>法人が策定した経営改革中期計画に基づき、園の年間事業計画を策定しています</p> <p>法人の年間事業計画に基づき、園の年間計画を掲げています。「研修の充実」や「東京都『すくわくプロジェクト』に参加」などの方針に沿って各種取り組みを行っています。また、保育実践の指針となる「全体的な計画」を改訂し、各クラスの年間指導計画を作成しています。指導計画の作成にあたっては、クラスリーダーを中心に、子どもたちの実態や発達を反映した案を作成しています。これをリーダー会議で検討した上で、職員会議にて審議・決定・共有しています。予算についても、計画に必要な予算と実績を法人と連携しながら管理しています。</p> <p>計画の振り返りは、個人目標や組織としての取り組みに対して行っています</p> <p>園が作成する計画に沿って、職員それぞれに職層に応じた目標達成シートを作成させています。職員は各自の役割を理解した上で、個人目標とその内容、手段、達成時期を記入し、上司に提出しています。上司は面談を通じて、目標が達成できるよう助言を行っています。また、年度末には目標に対する振り返りを記入し、提出しています。クラスごとに作成した指導計画についても、半年ごとに反省・見直しを行い、年間の振り返りも実施しています。さらに、行事や訓練についても必ず振り返りを行い、次年度の計画に活かしています。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◎あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
◎あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>福祉サービスに従事するための基本的な規範・倫理・法令遵守に取り組んでいます</p> <p>福祉サービス事業に従事するための規範・倫理・法令遵守を周知するため、職員には採用時と半年後に事業団による法人研修を実施しています。また、保育士として子どもの尊厳を守るため、年に2回、保育における留意事項について自己評価を行っています。特に、保育者が自覚していなくても虐待となりうる行為や言動については、園として定期的に確認し、本人、クラス、園全体で検証を行っています。さらに、子どもが家庭で虐待を受けている可能性を発見するため、チェック項目に基づき疑いがある場合は関係機関と連携し、情報を共有しています。</p> <p>保護者等から意見・要望・苦情を受け付ける窓口を明示し、解決への手順を定めています</p> <p>保護者からの意見・要望・苦情を受け付ける窓口として、「入園のしおり」に園内、第三者委員、区役所および事業団の連絡先を明示しています。園では、これらを受けた際に、自らの保育および保護者対応を振り返る機会と捉え、誠実な対応に努めています。対応の仕組みは「事業団苦情処理要綱」に基づき、苦情申出受付書や話し合い結果記録書などの書式を使用し、解決までの流れを検証して原因究明や再発防止に役立っています。また、意見や要望は保護者会のアンケート調査を通じて把握に努めています。</p> <p>実習生やボランティアを受け入れ、地域との関わりを深めることに力を入れています</p> <p>園はホームページや施設見学を通じて活動内容を公表し、活動の透明化を図っています。また、地域のさまざまな施設やネットワークに参加し、地域の一員としての役割を果たしています。特に、保育実習生を受け入れることで次世代の保育従事者の育成に貢献しています。同時に、近隣の小・中・高校生の体験学習を受け入れることで、子どもたちに幅広い交流の場を提供しています。これらの受け入れに際しては、受け入れマニュアルや実施要領、説明会を通じて規則等を説明し、双方の目的が良好に達成されるよう努めています。</p>		

カテゴリ-4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
◎あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
◎あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
◎あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
◎あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
	サブカテゴリ-2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
◎あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	
◎あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
◎あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
カテゴリ-4の講評		
<p>子どもが突発的な危険に直面した際に備え、日頃から訓練や研修を重ねています</p> <p>健康で安全に生活できることを最優先とし、危機管理の優先順位を設定して対策を講じています。特に、突発的に起こりうる事態への対応については、継続的な訓練により、現場で冷静に対処できるよう努めています。心肺蘇生、エビペン、AEDを含む救急救命は重要な講習および訓練として位置付けており、通報・連絡方法も重要な課題と考えています。これらの取り組みにおいては、必要に応じてマニュアルの更新を行い、全員に周知しています。また、ヒヤリハットに対する情報を収集・分析して共有し、事故の防止に努めています。</p> <p>災害時の初期対応・事業継続について定め、非常訓練を年度計画として実施しています</p> <p>園では、年度の事業計画に基づき、防災管理者の選定や防火避難訓練を計画し、実施しています。特に、感染症や自然災害(地震、風水害)などでライフラインに支障が想定される場合には、事業継続計画(BCP)によって事前に準備すべき内容を定めています。非常時には安否確認や情報共有を行い、引き取り訓練も実施しています。BCPでは、災害発生時の対応組織の確認、初動対応と必要なチェックリスト、事業の継続判断、復旧活動および災害備蓄品の管理について定めています。また、職員の参集状況の確認も行っています。</p> <p>個人情報の保護は、事業団の定める規程に従って運用・管理を行っています</p> <p>個人情報を含む情報の管理は、豊島区の条例に準じて定められた規程類に従い、事業団本部が一元管理しています。本部では研修やオンライン研修の受講機会も提供しています。また、実習生やボランティアに対しても、オリエンテーション時に情報管理の重要性を説明し、同意書を取得しています。特に保護者には、園内での情報管理の在り方や利用者の個人情報保護への取り組みについて説明し、入園時の重要事項説明において、個人情報の開示方法、写真の取り扱い、個人情報を含む文書の保管方法について詳細に説明し、同意を得ています。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
◎あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当	
カテゴリ5の講評			
<p>職員の採用や補充は、職員の年齢構成の平準化を目指し、積極的に募集を行っています</p> <p>職員の採用は、法人の人事課主幹で確保に努め、ホームページ、ハローワークや斡旋会社、教育機関等多方面に採用活動を行っています。園内では応募者の保育現場見学時には現場の生の声を伝え、採用活動の一端を担っています。採用後の配属は、本部と園長が相談の上本人の意向を確認して決定しています。特に、新規職員に対して新入研修を行い、法人および園が目指す理念、目標、そして目指す子ども像を説明しています。さらに、園内研修を通じて保育に関する考え方を共有し、本人の意向を尊重して法人内の他園や他部門への異動を実施しています。</p> <p>事業団本部は職務能力達成目標を明示し、職員に明確な目標を設定しています</p> <p>園における人材育成の方針は、事業団が定める職務能力達成目標によって明示されています。職員は園の組織目標を踏まえ、個人の目標や成果シートを作成します。園長は面談時に各職員のキャリアプランに対する考えを聞き、その上で助言を行っています。特に、研修プログラムは、東京都公立保育研究会、豊島区、私立園長会研修、キャリアアップ、法人内研修、園内研修など多数用意されており、職務に必要な技術に応じて受講を推薦したり、本人の希望を聞いたりしています。研修参加のためのシフト調整などの環境整備は園が整えています。</p> <p>さまざまな課題に取り組み、働きやすい職場を目指して継続的に改革を行っています</p> <p>職員が心身ともに健康で業務を行えるように、就業状況の把握や、安心して働き続けられる環境づくりに取り組んでいます。また、公私にわたり職員の相談を日常的に受ける体制を整えています。さらに、ハラスメント防止に向けた規程の整備と相談窓口を設けています。また、事業団による「業務改善提案制度」によって意見を出せる場や、研修報告での発表機会も設けています。このように、園では職員の働く意欲の向上や、地域との交流を通じた職員の専門能力の還元に努めています。</p>			

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>地域の子育て支援事業として、「ゆりかごくらぶ」と「マイほいくえん」の拡充を目標としました。これは、地域の子育て家庭にとって、いつでも相談できる場所として園を位置付けたいという背景からです。</p> <p>取り組みとして、以下を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年10回開催の「ゆりかごくらぶ」に加えて、「マイほいくえん」を実施しました。内容は、保育園で遊ぶ、お話の会、身体を動かそう、おもちゃで遊ぶ、初めての離乳食、玩具作りなどです。 <p>取り組みの結果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て家庭に、園を身近に感じていただくことができました。 ・妊婦の方には出産前の「調乳体験」によって、不安の軽減につながりました。 ・「マイほいくえん」では何度も来園できることが喜ばれました。 ・発達を気にされている保護者も、笑顔で参加でき、良い時間を過ごせたとの声がありました。 <p>今後の方向性：</p> <p>「マイほいくえん」に参加した方々からは大変喜ばれましたが、気温が高すぎると園庭遊びが難しく、ハイハイができる月齢のお子さんにはホールの方が好まれました。今後は、保護者同士が交流できるよう、保育士が積極的に話しかけることで交流のきっかけを作り、つながりを広げていきたいと考えています。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>地域の子育て支援事業として「ゆりかごくらぶ」と「マイほいくえん」の拡充を目指し、子育て家庭がいつでも相談できる場となることを目標に掲げました。年間10回の「ゆりかごくらぶ」に加え、「マイほいくえん」を開催し、保育園で遊ぶ機会やお話の会、身体を動かす体験、初めての離乳食、玩具づくりなど、多様なプログラムを提供しました。この取り組みにより、地域の家庭に当園を身近に感じていただき、妊婦には調乳体験が不安軽減につながる効果も見られました。また、何度も来園できる「マイほいくえん」が好評で、発達への不安を抱える保護者も安心して参加できる場となりました。</p> <p>今後は、暑い時期には屋内のホールで遊びの場を提供するなど、子どもの月齢に応じた環境を整え、保護者同士が交流を深められるよう、保育士によるサポートもさらに充実させ、事業の質向上を目指します。この取り組みは、PDCAサイクルに基づいて活動を展開しています。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「子どもが自ら育つ環境整備の充実を図る」ために、「ワークショップにおいて保護者と共に子どもの遊び環境を整備すること」を目的としました。日々、子どもたちが過ごす環境をより最適にするため、毎年環境アドバイザーの指導の下で室内外の環境を見直しています。6月には、子ども環境アドバイザーによる園内研修を実施し、大人と子どもの適切な距離感について学びました。また、11月のワークショップでは、保護者と共に1歳児室にロフトを設置し、園庭には丸太を配置するなど、自然を活かした遊び場の整備を行いました。この取り組みの結果、年齢ごとに異なる遊びが展開され、物の取り合いや待つ姿勢、思いやりが自然に育まれるなど、豊かな交流が見られました。本年度は「東京都すくわくプログラム事業」に参加し、「光」と「自然」をテーマに環境整備を行っています。乳児保育担当と幼児教育担当が中心となり、昨年度までにはなかった「光」を積極的に取り入れることで、自然との調和が子どもたちの遊びに広がりをもたらしています。現在では、木陰や観葉植物の葉の下に集まる子どもたちの姿も見られ、今後も木の温もりや光を取り入れ、子どもが心地よく育つ環境づくりを推進していきます。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行ってなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

「子どもが自ら育つ環境整備」への取り組みは非常に意義深く、特に「保護者と共に子どもの遊び環境を整える」点が保護者の参画を促し、園と保護者の信頼関係を強化しています。6月の研修や11月のワークショップにおいて、大人と子どもの適切な距離感の理解や、自然素材を活かした環境整備を通じて、子どもたちに豊かな経験が提供され、思いやりや順番待ちなど、対人関係の育成が促された点が高く評価されています。さらに、本年度の「東京都すくわくプログラム事業」への参加により、「光」と「自然」をテーマにした新たな環境要素の導入は、昨年度にはなかった遊びの広がりを生み出しています。子どもたちが木陰や観葉植物の下に自然と集まる姿は、自然環境が子どもに与える落ち着きや安心感の証であり、心地よい空間が提供されていることがうかがえます。今後も木の温もりや光を取り入れた環境整備を推進することで、子どもたちの自主性や社会性の育成にさらに寄与することが期待されます。この取り組みは、PDCAサイクルに基づき活動を展開しています。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>園の情報は、ホームページやパンフレットを通じて幅広く提供しています</p> <p>利用希望者に向けた園の情報は、パンフレットや法人が作成しているホームページを通じて幅広く提供しています。ホームページには、保育の理念、保育目標、サービス内容などが分かりやすく記載されており、園内の写真や「園のしおり」を掲載して、年間行事予定や園の一日の流れ、持ち物など、保護者が園生活をイメージしやすいよう工夫しています。また、今年度より自園で情報の更新が可能となり、季節ごとの情報発信を計画しています。さらに、地域連携の一環として一時保育や病児・病後児保育についても紹介しています。</p> <p>積極的に行政や地域のネットワークに参加し、情報発信を行っています</p> <p>園の情報は、区が作成している保育施設紹介冊子「保育施設案内・保育施設MAP」や子育て支援情報提供システムにも掲載されています。また、地域の子育てネットワークにも参加し、園の活動やプール開放に関する情報を提供しています。今年度は「すくすく育つ・わくわくする」を応援する幼保共通のプログラム「とうきょう・すくわく・プログラム」推進事業に参加し、「光」や「自然」をテーマにした環境づくりについて広く発信しています。</p> <p>見学の際には、園の特長や保育で大切にしていることについて丁寧に説明しています</p> <p>見学は主に園長と主任が対応しています。感染症予防のため一日5名までとし、見学時間は10:00から約30分間を目安に、園児の活動の様子などを順に案内しています。各クラスごとに木のぬくもりを大切にしたいテーブルや椅子、ロフト、子どもが集中できるような細かなコーナー分け、そして突進による子ども同士の衝突を防ぐための環境アドバイザーによる環境設定など、園のコンセプトをパンフレットと共に説明し、保育園での生活がイメージしやすいよう丁寧に案内しています。また、園見学の他に保育所体験も動めています。</p>		

サブカテゴリー2	
2 サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している ○非該当
◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している ○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している ○非該当
◎あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している ○非該当
◎あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている ○非該当
サブカテゴリー2の講評	
<p>「園のしおり」や「重要事項説明書」を用いて説明し、保護者の同意を得ています</p> <p>入園説明会では、「園のしおり」や「重要事項説明書」をもとに、子ども主体の保育方針と内容、一日の流れ、食事・行事のほか、健康管理や感染症への対応、準備する物や各種依頼事項について説明しています。質疑応答や必要に応じた補足説明を通じて理解が深まるよう配慮し、個人情報保護や重要事項に関する同意の確認も行っています。また、卒園後の不安に対応するため、卒園が近づいた時期には小学校の校庭開放や授業参観を積極的に行っています。昨年は小学5年生による学校案内があり、保護者や子どもたちの小学校への期待が高まっています。</p> <p>子ども一人ひとりの情報は児童票に記録し、関係者間で情報共有を図っています</p> <p>利用開始に先立ち、入園前に各種書類を保護者から提出してもらい、各家庭の状況や子どもの成育歴などの情報を把握しています。入園面接時には、保護者の意向や就労状況、子どもの発育や家庭での様子を聞き取り、児童票に記録しています。食事や健康面で個別の配慮が必要な場合は、詳細な状況を確認し、園での対応や個別の配慮に活かしています。把握した情報は会議で報告するとともに、組織内での情報共有を図り、一人ひとりの子どもや保護者への支援に活用しています。</p> <p>子どもと保護者が新たな環境で安心して過ごせるよう取り組んでいます</p> <p>子どもが新たな環境や人に対して不安やストレスを抱えることなくスムーズに順応できるよう、年齢や子どもの様子に合わせて「慣れ保育」を実施しています。期間は入園直後の2週間を目安とし、保護者と連携しながら保育時間を徐々に延ばしています。園では、保護者と子どもが離れることよりも、保護者と一緒に過ごしながら保育園や部屋に慣れることを優先しています。また、育児に関する悩みがある場合は個別に相談に応じ、コミュニケーションを図りながら保護者との関係づくりに努め、不安解消の一助となるよう心がけています。</p>	

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
◎あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
◎あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◎あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>子どもの基本情報や心身の状況などは児童票に記録しています</p> <p>子どもの基本的な情報、家庭状況や成育歴、緊急連絡先、かかりつけ医、個人面談記録などを児童票にまとめています。日々の活動は保育日誌に記入し、保育のねらいや子どもの状況と変化を書き入れています。0歳児、1歳児、2歳児、および何らかの障害のある子どもについては、一人ひとりに月ごとの個人別指導計画書を作成しています。記録は子どもの目線で、その姿がイメージできるように心がけ、見直しは前期・後期の各反省会で行っています。子どもの様子や保護者の要望については、個人面談や保護者会を通じて把握しています。</p> <p>指導計画は、見直しの時期や手順を定めた上で立案・作成を行っています</p> <p>各クラスの指導計画において、週案は週末に、月間指導計画は月末にクラス内で見直しや評価・反省を行い、子どもの姿を確認した上で翌週・翌月の計画立案を行っています。個別の計画については月1回、区の巡回発達相談員へ経過報告書を事前に送り、巡回時の返答を計画に反映できるようにしています。子どもの発育状況を具体的に確認し、その推移を踏まえて計画立案に活かしています。保護者への説明については、前期保護者会の際にクラス担任から年間計画について丁寧に説明を行っています。</p> <p>定例会の開催や保育ICTシステムの活用を通じて、情報の共有を行っています</p> <p>毎日の朝礼や申し送りに加え、定期的に職員会議や乳幼児会議などの各種定例会を開催し、行事報告や子どもの状況などの情報を職員間で共有しています。また、保育ICTシステムを導入し、全体的な保育計画や指導計画、児童票、日々の状況、ケガや体調不良の記録など、一人ひとりの成長や発達に関する情報をアプリに入力し、職員間で共有を図っています。子どもの様子や保護者への個別連絡事項など、登降園記録、日誌作成、指導案も作成可能で、職員は必要に応じてタブレットで確認しています。</p>		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>入所時に、個人情報保護方針について説明し、同意を得ています</p> <p>個人情報保護については、重要事項説明書に個人情報保護方針が記載されており、入園時に保護者へ十分に説明した上で同意を得ています。利用目的として、適切な保育の実施のためを前提とし、各用途を明記しています。記載されている目的以外で使用する場合には、その都度事前に確認を行っています。また、保護者には行事以外での園内での写真・動画撮影の禁止や、園で開催している夏祭り、運動会、発表会などの行事の際に撮影したものをSNSに掲載しないよう協力を求めています。</p> <p>子ども一人ひとりを尊重し、その気持ちを大切にしたい保育に取り組んでいます</p> <p>子どもの羞恥心に配慮し、シャワーやプールの際には外から見えないようカーテンを閉め、着替えも人目に触れないように配慮しています。おむつ替えは決まった交換台で行い、トイレには仕切りのあるタイプとドアのある個室タイプを用意し、成長に応じて落ち着いて使用できる環境を整えています。子どもを尊重する保育に取り組み、子どもの良いところ目を向け、できたことや頑張ったことに気づくたびに職員が褒める姿勢で接し、否定的な言葉を極力避けるなど、常に子どもの気持ちに寄り添う保育を心がけています。</p> <p>研修や関係機関との連携を通じて、子どもの権利擁護に関する意識を高めています</p> <p>職員は入社時研修で子どもを尊重した保育について学び、家庭ごとに異なる価値観や生活習慣があることを十分に理解しています。また、研修では「人権擁護」や「不適切保育」について学ぶ機会があり、定期的に振り返りも行っています。さらに、子ども家庭支援センターの心理巡回指導員や児童相談所とも連携して保育を行っています。子ども家庭支援センターの研修に参加することで、支援センターの役割や虐待の種類、子どもの権利条例について学び、児童虐待への理解を深めています。研修内容は職員間で共有し、意識の向上に努めています。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ6の講評			
<p>マニュアルを整備し、職員間で共有することで業務の標準化を図っています</p> <p>保育、危機管理、看護、衛生管理、食物アレルギー対応などのマニュアルやガイドラインは、法人本部で作成され、園に配布されています。また、衛生管理や感染症の流行レベルに応じた対策、事故防止および緊急時の対応を定めた手順書を整備し、事務室やシステム上での閲覧が可能です。必要な手順は各所での掲示や朝礼を通じて周知を図っています。さらに、年齢に応じたクラスマニュアルを各クラスに設置し、毎年度アップデートして変更事項を職員間で共有し、業務の標準化を図っています。</p> <p>手順などの見直しにあたっては、職員や保護者の意見を反映しています</p> <p>安全計画やBCPなど各種マニュアルは、毎年見直しを行い、実践につながるよう計画しています。保育計画や行事に関しては、前期・後期の年2回、反省会を実施しています。反省会では、動画や写真を用いて職員同士がより深く情報を共有できるよう取り組んでいます。保護者には、運動会や保育参観など参加型行事の後にアプリのアンケート機能を活用して、意見や要望を収集しています。サービスの基本事項や手順の変更、見直しに加え、職員や保護者からの意見や提案を反映させる体制が整っています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている				
			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している			○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			○非該当
◎あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している			○非該当
評価項目1の講評				
<p>子ども一人ひとりの発達過程や生活環境を把握し、園内環境の改善に取り組んでいます</p> <p>それぞれの子どもの状況を、0～2歳児は「健康」「子どもの様子」「配慮すべきこと」、3～5歳児は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」「配慮すべきこと」に分け、年2回見直して記録する児童票を利用し、全職員が個々の子どもの発達過程や生活環境を把握したうえで保育を行っています。また、子ども環境アドバイザーである専門家の指導のもと、ロフトやパーテーションの配置など室内環境や、遊び場や園内の畑などの園庭環境の改善に取り組んでいます。その結果、子どもの成長に応じて室内環境が半年で大きく変わることもあります。</p> <p>配慮が必要な子どももクラスの中で皆と一緒に成長できるよう、保育を工夫しています</p> <p>配慮が必要な子どもには、一人ひとりに専任の保育士がつき、様子を見ながら必要に応じて気持ちが落ち着くような玩具を取り入れる等の対応をしているので、ほとんどの時間を他の子どもたちと一緒に過ごし、クラスの中でともに成長する保育を実践できています。また、月に1回来訪してくれる地域の巡回発達支援員には、状況に応じてどのような配慮が子どもにとって良いかのアドバイスをもらい、保育に役立っているほか、保護者が別の地区の巡回発達支援員などからアドバイスを受けた場合には、その内容を保護者から聞き、職員間で共有しています。</p> <p>子どもの年齢や発達に応じて環境設定を行い、小学校入学時には学校と連携しています</p> <p>子どもの発達は一様ではありません。特に、月齢による発達の差が大きい乳児クラスの場合、パーテーションの配置や発達に沿った支援方法の見直しを常に行っています。幼児クラスではそれほど頻繁ではありませんが、やはり発達に応じた環境設定を心がけています。また、子どもにとって小学校入学は大きな環境変化であるため、準備の一環として「小学校だより」を5歳児に配布しています。さらに、小学校入学が近づき保育要録を提出した際に学校から質問があった場合は、来園時や電話で個別に相談を行っています。</p>				

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
◎あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時に子どもの様子を保護者と情報交換し、共通理解を深めて保育を行っています</p> <p>園では、朝の早番の時間帯に保護者と子どもが登園した場合、家庭での様子を聴取し、担任が確認した後、連絡帳の記入とともにクラスの視診表に記入しています。また、園児の受け入れ後に出欠席について事務所に報告し、欠席連絡のない家庭には10時に保育園から担任が電話をかけて確認しています。さらに、降園時に担任がいる場合は、その日の子どもの様子を担任が直接保護者に伝えています。今春から保育ICTシステムを導入したことで、保護者への伝達が非常に容易になりました。</p> <p>発達段階に応じた指導計画を立て、基本的な生活習慣が身につくよう援助しています</p> <p>園では、年間指導計画である全体的な計画に、年齢別の保育目標・内容を明示し、発達に応じた生活習慣が身につくよう保育を進めています。食事については、0～1歳児用と2～5歳児用の食事年間計画表をもとに、手づかみから始まり、リングスプーンの使用、箸とともにスプーンやフォークをメニューに合わせて使えるようになるまで段階を踏んで保育を進めています。また、排泄に関しても、月齢や年齢を考慮し、一人ひとりの発達状況を把握しながら、その子のペースに合わせたトイレトレーニングを進められるようにしています。</p> <p>子どもの成長に合わせて昼寝の時間を設定し、その時の状況に応じた対応を行っています</p> <p>園では、昼寝に関しても家庭での生活状況を聴取するなどの連携を取り、子どもの成長やその時の状況に合わせて静かな環境で昼寝がとれるよう配慮しています。また、子どもが途中で目覚めた場合、乳児であれば気持ちが落ち着くよう抱っこしたり、職員が絵本を読んで聞かせたりしています。幼児の場合は保育室に移動し、自由に読書や絵描き、コーナー遊びなどの一人遊びを通して静かに過ごせるようにしています。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	○非該当
◎あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの気持ちを大切にしながら、一人遊びや集団活動に参加できるよう配慮しています</p> <p>園では、子どもの気持ちを尊重した保育の一環として、クラス内で子どもが一人で自由に活動できるパーソナルスペースを確保するための仕切りを設置しています。また、クラスの仲間と楽しく遊べるような集団活動も計画し、声かけをして参加を促しています。子どもは自由に一人遊びや集団活動に参加していますが、集団活動の中では順番を待ったり、みんなで片づけをするなど、遊びの中で大人からの指示に頼らず、自分たちで話し合って決まりごとに自然に気づけるような配慮もしています。</p> <p>楽しみながら言葉に対する感覚を養い、体を使った表現ができるよう配慮しています</p> <p>園では、外部から講師を招き、3～5歳児が参加する「お話の会」と「ダンスを楽しむ時間」を毎月1回開催しています。「お話の会」では、昔話などを聴きながら、楽しみの中で言葉に対する感覚や聴く力を養っています。「ダンスを楽しむ時間」ではリズム遊びを中心に、子どもたちは歌やダンスなど体を使った表現を楽しんでいます。このほかにも、絵具や製作などの美術的な表現の機会を日常的に提供しており、園では、子どもが無理なく楽しみながらさまざまな感覚を養えるよう力を入れています。</p> <p>子どもが積極的に活動し、季節の変化も楽しめるよう、都の事業にも参加しています</p> <p>園は、都のすくわくプログラム事業に参加しており、担当職員が「光」と「自然」をテーマに、子どもたちの非認知能力の育成に力を入れています。また、子どもが自ら遊べる環境を目指し、メダカがいる水槽や観葉植物を増やして、子どもたちが主体的に発見し、探究心を深められるような環境整備を進めています。散歩ではどんぐり拾いや虫探しを行い、園庭では夏野菜や米づくり、柿やミカンの木を植え、季節の変化を楽しんでいます。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事等は、子どもと話し合い、子どもの意見を取り入れて進めることを大切にしています</p> <p>園では毎月、行事を予定していますが、基本的にはクラスごとに担当がつき、職員が子どもたちの気持ちをまとめる形で進めています。4歳児、5歳児、3歳児の後半の子どもたちには、それぞれサークルタイムが設けられ、そこで話し合いを通して出てきたさまざまなアイデアを取り入れています。また、その他のクラスでも、担当職員が子どもたちに話しかけて関心や要望を把握し、子どもの気持ちに寄り添う行事の内容を決定することで、子どもが楽しめる行事となるよう心がけています。</p> <p>競争や発表では結果に重点を置かず、その過程で達成感を味わうことを大切にしています</p> <p>園では、行事での活動において、完成度よりも、行事が始まるまでのプロセスで子どもたちが達成感を味わい、「また頑張ろう」や「次はこんなふうにしてみよう」と前向きになれることを大切にしています。競争が伴う運動会や発表会などでは、保護者が結果に期待を寄せるシーンも多くなります。そのため、「できた」「できない」という結果を意識するのではなく、子どもが自ら楽しむ姿や、緊張や葛藤と向き合う子どもの心情を保護者に感じてもらえるよう、行事の目的を伝え、過程を大切にもらうよう努めています。</p> <p>行事には保護者も一緒に参加できるよう、工夫や呼びかけを行っています</p> <p>園では、運動会などにおいて、保護者が見るだけでなく、子どもと一緒に身体を動かし楽しめるような競技になるよう工夫しています。また、5歳児の調理保育で裏野菜バーベキューを行った際には、保護者にもボランティア参加を呼びかけたところ、今年は全員の保護者が参加し、盛大に楽しい行事となりました。現在、ボランティアの声かけは5歳児クラスの保護者に限定されていますが、今後は他のクラスの保護者にも呼びかけ、全体の参加を促したいと考えています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが不安を持たずに安心して過ごせるよう、環境整備を行っています</p> <p>園では、保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるように、各クラスにくつろげるスペースを設け、ソファやクッションなどを配置して環境を整えています。また、18時15分までは1歳児クラスと2歳児クラスが合同になる以外、各クラスそのままの状態で行っています。それ以降の時間は、落ち着いた環境で、室内にトイレや通報装置も備わった3歳児の部屋に全員が集まり過ごしています。この時間帯は、利用する子どもの数が少なくなるものの、備え付けのおもちゃや備品が年齢に適していない場合があるため、今後の改善を検討しています。</p> <p>延長保育時間帯は非常勤職員の配置を固定し子どもが安心して過ごせるようにしています</p> <p>保護者の事情により、突発的な延長保育の利用だけでなく、決まった曜日に延長保育を利用する家庭も多くあります。そのため、子どもたちがその時々で親しみのない職員と顔を合わせて落ち着かなくなることがないよう、延長保育時間帯に勤務する非常勤職員は曜日ごとに固定しています。これにより、子どもたちは関係が築かれた同じ職員が対応してくれることで、安心して過ごすことができている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
◎あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>年齢別の食事時間設定や行事食、季節を感じる機会を通じて食事をより楽しくしています</p> <p>園では、子どもたちが落ち着いた環境で食事ができるよう、0歳児、1・2歳児、3・4・5歳児ごとに食事時間を分け、グループごとに楽しく食事がとれるようになっています。また、月に一度、誕生日メニューとしてケーキを提供するほか、子どもの日など年6回の行事食で特別感を味わえる機会を設けています。さらに、月見団子作りをはじめ、園内での米づくりや夏野菜の栽培を通じて、季節と食物の関わりを感じる体験の機会を提供し、子どもたちが食に興味を持てるようにしています。また、食育担当者が食事のマナーについての集会も行っています。</p> <p>子どもの状態に合わせた献立を提供できるよう、月に一度の献立検討会を行っています</p> <p>園では、子どもの咀嚼力やアレルギーに配慮した食事を提供しており、状況に応じて食事内容の変更も必要となるため、調理を委託している会社と毎月献立検討会を開き、おかわりの分量やジャムの味の変更などについて話し合っています。また、厨房と各クラスが離れているため、子どもたちが調理の様子を見られず、調理員も子どもたちが食べる姿を見ることができない現状があります。そのため、園では子どもの食事の様子を調理員が見て、好みを把握してもらいたいと考えています。</p> <p>保護者も参加した調理実習は大変好評でしたが食への関心を一層深めたいと考えています</p> <p>園では、育てた夏野菜の収穫を楽しむとともに、調理実習も行っています。調理実習は主に5歳児対象に行っていますが、夏野菜パーベ、キューにボランティアを兼ね保護者の参加を呼びかけたところ、今年は当日登園していた全家庭が参加し2つの部屋を使って盛大に行うことができ、大変好評を得ることができました。今後は子どもたちが食への関心をさらに深められるように工夫していきたいと考えており、現在、野菜の皮むきの手伝いなども5歳児は年3〜4回行っていますが、1歳児や2歳児も食材に触れる経験ができるように計画をしていく予定です。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康や安全に関心を持ち感染予防や着替えにも注意できるよう取り組んでいます</p> <p>コロナ禍は収束しましたが、この間に他の疾病の感染も減少し集団免疫力が低下した影響もあって、園でも手足口病の感染が広がり、園児が2回感染してしまうケースもありました。このため、引き続き登園時の手洗いをはじめ、衛生管理の徹底に努めています。また、保健活動の一環として、夏季の活動前にプライベートゾーンについて幼児クラスで集会を開き、着替えの方法を再確認したほか、シャワー時に外部から見えないようカーテンを取り付け、安心して夏の遊びを楽しめるよう配慮しています。なお、身体測定は下着を身につけたまま実施しています。</p> <p>健康管理と把握に力を入れ、医療機関との連携も進めており病後児保育も実施しています</p> <p>園では、子どもの健康や発育・発達状態を月1回の身体測定や年2回の頭囲と胸囲の測定を通じて、定期的かつ継続的に把握しています。また、嘱託医による内科検診は0歳児に月2回、1〜5歳児には月1回実施しており、歯科検診や腎臓検診(4・5歳児対象)、眼科検診、耳鼻科検診(3・4・5歳児対象)はそれぞれ年1回行っています。これにより医療機関との関係も深まり、病後児保育においても、看護師が医療機関と連携して取り組むことができています。また、病後児保育では他の園との連携も進めており、外部からの利用も受け入れていています。</p> <p>園のしおりで保健と健康管理について説明し、乳幼児突然死症候群の予防にも積極的です</p> <p>園では、保健と健康管理について園のしおりで丁寧に説明しており、登園基準やお迎えが必要となる状態、医師が重篤な症状と判断した既往症がある場合を除いて薬は預かれないことなどを伝えています。また、乳幼児突然死症候群の予防に積極的に取り組んでおり、0歳児には午睡センサーを使用し、5分毎の目視と合わせた二重の管理を行っています。さらに、1歳以上の子どもたちについても、10分毎に目視で睡眠状況の変化を注意深く確認しています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
◎あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>園長と保護者との面談で勤務時間や家庭の状況を十分に配慮し保育時間を決定しています</p> <p>園の保育時間は、短時間保育と標準時間保育に分かれており、その設定は園長が保護者と面談を行い、勤務時間や通勤時間(在宅勤務は除く)、家庭の状況などを考慮して決定しています。また、園では子どもと保護者の時間を大切にしたいとの考えから、保護者の仕事か休みの日は園も休むようお願いしています。一方、延長保育時間は18時15分から20時15分までですが、保護者の仕事の都合で直前に延長保育が必要になった場合でも、連絡を受ければ対応が可能です。また、保護者の事情に応じた保育時間の変更も随時行っています。</p> <p>保護者会の活動は活発であり、運営協議会などでも連携して園の活動を行っています</p> <p>園では、コロナ禍が収束し、保護者会で対面の懇談会が開催できるようになり、現在は保護者同士の情報交換や意見交換が活発に行われています。また、各クラスの保護者代表から2名の保護者を選出し、保護者会の会長、副会長として任命しています。年2回実施される保護者アンケートの結果をもとに、園との間で話し合いを行い、必要な対応を進めています。さらに、保護者会の代表、園、法人事務局、有識者が年2回運営協議会を開催し、意見や要望を共有・精査し、より良い保育の実現に努めています。</p> <p>保護者面談のほかに随時保育参観や保育参加を実施し、子育ての悩み相談も行っています</p> <p>園では、年に一回の保護者面談に加え、保育参観や保育参加も随時実施しています。保護者からの子育てに関する悩み、特に発達に関する内容については、関係機関とも連携し、専門家の意見を担任も共有することで、保護者がいつでも安心して相談できる体制を整えています。また、保育参加では、散歩や園庭遊びなどの日々の活動に保護者が参加したり、卒業制作で子どもと一緒に取り組む機会を提供することで、子どもとの共通体験を持つ良い機会となっています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
◎あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>散歩コースも多く、園から離れた場所で地域資源を活用した経験を楽しんでいます</p> <p>園には10前後の散歩コースがあり、天気の良い日には子どもたちにとって心地よさを感じられる人気の活動となっています。職員数の関係で、散歩は1日に2クラスまでとしていますが、各クラスとも週1~2回の頻度で散歩に出かけています。散歩コースのひとつには、「おばあちゃんのお原宿」という愛称で親しまれる門前町の商店街があり、子どもたちは歴史ある街並みを歩き、地域を知る経験をしています。また、さまざまな遊具や機がしい黄色い都電の車両がある遊戯広場では、自由に駆け回って遊んでいます。</p> <p>地域の保育施設や小学校との連携も始まり、子どもたちの交流の幅も広がっています</p> <p>私立園長会および教育委員会が主催する「保、幼、小の連携」や、区の保育課が主催する地区の施設間連携が本格化し、園も積極的に参加しています。この活動では、近隣の保育園見学や年長児同士の交流などが広がり、子どもにとっても他施設の子ともと交流する良い機会となっています。また、昨年度には、小学校5年生と5歳児が交流する機会もありました。小学生が小学校内を案内し、小学校で行う活動を体験することで、入学を控えた子どもたちにとって良い準備の場となりました。</p> <p>大学のサークルや高校生が、ボランティアとして来園し交流する機会が増えました</p> <p>園では、大学生や高校生がボランティアとして来園する機会が増えました。9月には、区内の大学の太鼓サークルが来園し、5歳児と一緒に演奏を楽しむ企画が予定されていましたが、猛暑のため熱中症のリスクを考慮し、やむなく中止となりました。また、近隣の高校からもボランティアが来園し、園児と触れ合う機会がありました。高校生との交流は今後もさらに増えることが期待されます。これまでの交流は例年5歳児が中心でしたが、今後は3歳児や4歳児との交流も視野に入れていきたいと考えています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	子どもたちが自分たちだけで話し合いを通じて合意を形成できるよう、配慮しています	
内容①	園では、幼児クラスの活動の中で、適宜サークルタイムを設けています。特定の時間を決めているわけではありませんが、活動の後に楽しかったことを互いに伝え合ったり、行事前にどのような行事にしたいかや自分たちのグループ名を話し合っただけという機会になっています。これを通じて、子どもたちは自分の意見を述べるだけでなく、仲間の話も尊重して合意形成していくことを自然に学んでいます。サークルタイムでの内容は、記録に残すこともあれば、行事がこうなりましたといった報告をクラス全体の保護者に向けてレターで伝えることもあります。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	2-2-2	着実な計画の実行に取り組んでいる
タイトル②	年間計画の着実な実行によって、園の目指す人材育成や地域の福祉の向上に努めています	
内容②	当園では、年間計画書を作成し、年度の行動目標を定めています。人材育成を通じて保育の質の向上を目指し、研修の一部をオンライン化することで、参加者の利便性を高めました。また、東京都の「すくわくプログラム」への参加では、乳幼児期の子どもたちが「光」と「自然」をテーマにした環境整備によって、自然との調和を通じてその遊びが広がりました。さらに、地域の保育施設間の連携を促進し、施設間での協力体制が整うことで、より良い保育環境が実現されています。これらの計画を着実に実行することで、園の地域での活動発展に寄与しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
タイトル③	保育業務が円滑になるよう、保育ICTシステムを導入し有効に活用しています	
内容③	保育の記録を中心に、保育ICTシステムを導入し、業務がスムーズに遂行できるよう有効に活用しています。システムの特性を活かし、記録の取り方や様式の変更等研究や検討を重ね、一人ひとりの子どもの状況を記録できるようにしています。職員はタブレットやパソコンを使用して、いつでも必要な情報を閲覧できる環境を整えています。また、職員の事務作業だけでなく、保護者との情報共有や緊急連絡、登降園の連絡にも活用されています。さらに、子どもの活動の様子や行事の写真を添付し、保護者が自由にダウンロードできるようにしています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育所としての専門性や施設を活かし、地域の子育て家庭の支援を通じて地域の福祉ニーズに応えています
	内容	地域における社会福祉に関する知識と専門性を持つ社会資源としての役割を発揮するため、「ゆりかごクラブ」や「マイほいくえん」といった活動を行っています。育児不安の軽減を図るための保育所体験や、出産を控える親のための体験学習を実施し、また園庭を開放することで、地域の親子に施設での遊びの場を提供しています。さらに、実習生の受け入れや小中高校生の職場体験を通じて、次世代の福祉従事者の育成支援も行っています。また、当園の特別事業として、一時保育や病後児保育、休日保育を実施し、地域の多様な福祉ニーズに応えています。
2	タイトル	集団生活の中で、子どもたちが安全で安心して遊ぶことを自分たちで考えながら遊び込めるよう、環境アドバイザーと共に取り組んでいます
	内容	各クラスの室内は木のぬくもりを感じられる作りとなっており、角に丸みを持たせた木製のテーブルや椅子、よじ登ったり飛び降りたりできるロフトを設置しています。また、絵本やパズル、ままごと遊びなどのコーナーを各所に配置し、子どもが集中できるパーソナルスペースを提供しています。室内レイアウトも工夫されており、全速力で走り抜けられない動線を確保し、子どもが自分で考えながら安全に遊び込める環境を整えています。さらに、環境アドバイザーと協力し、集団生活の中での探求心や新しい発見につながる環境設定に力を入れています。
3	タイトル	配慮が必要な子どもには、その子どもの特徴を把握し外部の専門家と連携して他の子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごせるようにしています
	内容	園では配慮が必要な子どもの保育を進めるため、子どもの特徴を十分に把握した専任の保育士を配置しています。また、子どもが他の子どもたちと楽しく過ごしている場合は少し距離を保ち、必要以上に介入せず、支援が必要な場合にすぐに子どもの気持ちを落ち着けられるようにサポートしています。さらに、地域の専門家から直接・間接的なアドバイスを受け、連携して子どもが心豊かに成長できるよう努めています。この取り組みは「ともに歩もう しあわせでゆたかな まちをつくるために」という共生社会をめざす法人理念を体現しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	年々高度化するICTの進展に伴い、今後、予防的な備えの強化が一層求められています
	内容	法人および各園は、ICT化への取り組みを進めてきました。特に、保育業務支援システム(アプリ)は、傘下各園が同一のアプリを使用することで業務の標準化を実現しました。さらに、オンライン研修や、アプリの進化により、業務負担の軽減と保守管理の一元化が図られました。一方で、日常業務に使用するデータ類の保管・管理については、設置当初に最適な設備を構築したものの、近年は機器の陳腐化が早く、劣化による突然の故障や外部からの不正アクセスへの懸念が高まっています。今後、これらに対する予防的な備えへのさらなる強化が求められます。
2	タイトル	各種会議やミーティングにおいて、意見交換やディスカッションができる環境を整え、意見の偏りが解消されることを期待します
	内容	職員会議では、各計画の見直しをはじめ、日々の園児や保護者の様子について、ICTアプリや口頭での申し送りにより、職員間で情報共有を図っています。毎月実施する乳児・幼児会議やクラスミーティングなどでも園全体での情報を職員間で共有する体制を整えています。しかし、各ミーティングにおいて意見を上げる職員の偏りや、職員間で学びあう時間が少ないことが課題の一つとして考えられています。今後は各ミーティング時などに職員間でのディスカッションを行える場の設置が期待されます。
3	タイトル	調理を委託している給食会社との意思疎通が必ずしも円滑に進んでいないため、会議の進め方を含めた改善が望まれます
	内容	園では、外部の業者に委託して給食を提供していますが、月に一度の献立検討会を行っても、園の意図が十分に伝わっていない状況です。これは、厨房が3階の奥に位置しており、調理師が気軽に子どもたちの様子を見に来れないことや、献立検討会で園が要望を出しても現場ですぐ回答できない場合があることが影響しているようです。そのため、園の意向に沿って、調理師に園児の食べ具合など給食中に見に来てもらうようにするとともに、献立検討会には業者の本部にも出席してもらい、意思の疎通の改善を図ることが望まれます。